

## 社会保障こぼれ話

### 年齢別による医療費

— 1976年 — (アメリカ)

人びとの年齢は、健康保護やそれを手に入れるのに必要な費用に大きな関係をもっている。したがって、19歳未満、19-64歳、65歳以上の各グループ別に、健康保護の型と人びとがそれらに支払った費用について、医療費の分析が行なわれている。この分析で調査の対象とされた医療費は、公的な制度と私的な手段によるものを含んでいる。医療費の動きをみるこの調査は、メディケア制度が開始された1967会計年度から現在まで続けられている。

1976会計年度、つまり、1975年7月1日から1976年6月30日までの間に65歳以上の2,200万人が必要とした健康保護に対して、総額349億ドルが支出された。同様な金額は19歳未満のグループで179億ドル、19-64歳のグループで677億ドルであった。このような年齢グループ別による医療費の傾向は、1人当り医療費を反映し、1人当り医療費は19歳未満では249ドル、19-64歳のグループでは約2倍(547ドル)で、65歳以上のグループでは約3倍(1,521ドル)であった。また、全人口の約3分の1に当る19歳未満のグループの医療費合計は、総医療費の15%を占めるにすぎないが、65歳以上のグループはその約2倍(29%を占めていた。残りの56%が19-64歳のグループによって占められていた。

私的な手段による費用は、主として、若いグループが占めていた。高齢者の場合、公的な資金がかれらのグループに要した費用の3分の2以上を調達していたが、かれらの費用の4分の1以上は、当人達が自分で賄っていた。

なんらかの方法により、政府の制度で財源を調達した各人への医療費は、1976年度に484億ドルで、これは同年度に人びとに要した医療費の40%に

当る。公的な制度のうち、主要な2つの制度はメディケアとメディケイドで、これらの費用は315億ドルになっており、これは公費による医療費の65%で、各人に提供された医療の費用のうち、26%に相当する。メディケアは第一義的には高齢者を対象としており、メディケイドも38%が高齢者のために支出されていた。したがって、65歳以上のグループに対する医療費のうち、38%、つまり、236億ドルが公的な制度により調達されたことになる。ちなみに、公的な費用は19-64歳のグループに要した費用のうち30%で、19歳未満では26%になる。

提供された医療は、年齢別のグループで異なっており、19歳未満では、31%が医師の診療で、薬剤や歯科医療などは少ない。19-64歳のグループでは、病院医療が比較的によく、約2分の1の費用はこれに支出されていた。65歳以上のグループでも、病院医療は45%を占め、ナーシング・ホームが25%で、医師の診療が17%であった。

R.M. Gibson, M.S. Mueller, and C.R. Fisher, Age Differences in Health Care Spending, Fiscal Year 1976. Social Security Bulletin, August 1977, pp. 3-14.

(平石長久 社会保障研究所)